

平成26年度 施策評価シート（評価対象：H25年度）

【1. 施策名】

施策コード	141-02	基本施策	保健衛生の充実	所管部局	保健福祉部
施策名	保健・予防対策の推進			主担当課	健康課
				関係部局課	保健福祉部健康課
施策の目標	保健指導の推進や生活習慣病などの早期発見・早期治療のための各種検診の充実などにより、一人ひとりのライフステージに応じた疾病の予防と健康の増進を目指します。				

【2. 施策に取り組む理由】

<p>施策目標に対する市民ニーズの傾向及び、施策目標の達成に向けた市の役割など</p> <p>妊産婦死亡率、周産期死亡率、乳幼児死亡率はいずれも低く、わが国は世界のトップクラスに達している。出生率が低迷している中、トップの状況を維持していく必要がある。 減塩運動等の効果があり脳血管疾患死亡数は減少し、代わってがん死亡数が増加している。がんの早期発見・早期治療が重要である。 感染症は、抵抗力の弱い乳幼児や高齢者にとって健康の脅威である。感染症対策は、昔も今も国民全体のまん延防止及び個人の疾病防止の両面から、子どもの時にきちんと予防接種し、集団免疫水準を維持していく必要がある。</p>
--

【3. 施策指標】

施策指標（成果を示すもの）	単位	基準値 (H22)	実 績					目標値 (H28)
			H24	H25	H26	H27	H28	
大腸がん検診受診率	%	22.7	25.6	25.4	/	/	/	25.0
指標の定義	目標値のねらい（設定根拠・算定方法）							
大腸がん検診受診率	国保特定健診と同時受診が可能で、容器を受け取り、検体を提出する比較的簡便な方法の検診であり、普及拡大しやすいと判断されるため							
施策指標（成果を示すもの）	単位	基準値 (H24)	実 績					目標値 (H28)
麻しん・風しん第2期 予防接種率	%	81.0	81.0	91.7	/	/	/	95.0
指標の定義	目標値のねらい（設定根拠・算定方法）							
麻しん・風しん第2期 予防接種率	厚生労働省が、麻疹撲滅を目指し、定期予防接種で唯一目標接種率を示しているため							
25年度の 取組内容 実績	新生児訪問 2,664人（訪問率約88%） 妊婦健診 延38,331人（受診率約84%） 乳幼児集団健診 9,241人（受診率約96%） 各種がん検診受診者数 延72,889人（受診率約14%：胃・子宮・肺・乳・大腸・前立腺・骨粗しょう症・肝炎ウイルス） 定期予防接種総接種回数 125,199回 ゲートキーパー養成研修参加者数 1,711人							

【4. 総合評価】

総合評価（目標値に向けて）	順調
評価の理由・説明等	
適応性 市民ニーズや社会経済状況の変化に柔軟に対応しているか	死亡原因第1位のがんの早期発見を目的とする各種がん検診については受診率が低迷しているものの、少子化、晩産化等に伴い重要性を増している妊婦健診については、受診率80%以上を維持している。 また、自殺防止以外にひきこもりやうつ病の増加とともに重要性を増している、身近な存在の悩みに気づき、傾聴し、専門家につなげるゲートキーパーの養成研修参加者については、目標を大幅に上まわるペースで増えている。
達成度 施策の目標達成に向けて順調に進んでいるか	各種母子保健健診、がん検診、定期予防接種の実施率については、一部横ばい、低下の項目があるが、新生児訪問の実施率は年々上昇し、自殺者数は減少しており、保健予防対策全般では、順調といえる。
事業の成果等 施策を構成する事務事業は目標を達成しているか	乳幼児健診、妊婦健診、乳幼児健全発達支援相談、がん検診等各事業について、個人の主体性によるものやプライバシー意識などにより、目標達成が難しい面があるが、全体としては概ね目標を達成している。

【5. 今後の展開】

課 題		課題解決に向けた具体的な取組
1	がん検診について、「時間がない」「がんとわかるのが怖い」「必要性を感じない」などという理由で受診しない人が多い。また、女性の乳がん・子宮頸がん検診の受診率が低い。	従来からの全戸配布のがん検診等の案内冊子の紙面の工夫や医療機関へのポスター掲示、各種イベントなど機会を捉えた広報のほかに、女性にターゲットを絞った広報など更に工夫をして早期発見・早期治療の重要性を啓発し、受診率向上に努める。
2	定期予防接種の種類が増え、保護者にとって過密スケジュールとなっている。	計画的な接種ができるよう、「あかちゃんのおしり」や全戸配布の「健康カレンダー」、HP等により正確な情報提供を図っていく。
施策展開の方向性 (H26年度以降)		水痘、高齢者肺炎球菌が、定期予防接種として追加される。新ワクチンの導入に際しては、保護者や高齢者等が混乱せず、計画的に円滑に対応できるよう医療機関と連携しながら、正確な情報提供を図る。 少子化対策の一環として、育児不安の解消や虐待・ネグレクトの防止のため、妊産婦・新生児へのきめ細かな対応やこども未来部との密な連携による発達支援安心ネットワーク事業の実施など母子保健の更なる充実に取り組んでいく。

【6. 施策を構成する主な事務事業】

番号	事務事業名 [事業区分] 担当課名	事務事業の状況									
		事務事業の概要					事業の取組実績・成果				
1	乳幼児健康診査 [サービス提供事業] 健康課	事務事業の概要					事業の取組実績・成果				
		身体発育及び精神発達の面から重要な乳幼児期に健康状態を把握し、疾病、障害の早期発見・早期治療を促進する。					受診時期に里帰り中などの理由で、ごく一部健診を受けない場合があるが、集団健診において95%以上医師の診察を受け、必要な場合は精密健康審査受診票を交付し、対象乳幼児の健康保持、疾病等の早期発見に寄与している。				
		事業の分析結果					年度別事業費（千円） (H26は予算額)				
		達成(進捗)状況の評価	必要性	妥当性	有効性	効率性	今後の方針	H23	H24	H25	H26
	B	B	A	B	B	継続	135,330	135,328	134,069	133,341	
2	妊婦健康診査 [サービス提供事業] 健康課	事務事業の概要					事業の取組実績・成果				
		安心して出産を迎えるため、基本健診14回、追加検査（血液検査）5回、超音波検査4回について、妊婦に受診票を交付し、委託契約した医療機関、助産所において健診を実施する。					目標（基本健診受診票交付数から、人口動態統計による早期出産分を除いた数）に対し、およそ8割程度の受診率である。（ただし、早期の流産や転出による未受診数は、把握できていない。）				
		事業の分析結果					年度別事業費（千円） (H26は予算額)				
		達成(進捗)状況の評価	必要性	妥当性	有効性	効率性	今後の方針	H23	H24	H25	H26
	B	A	A	A	A	継続	364,791	356,670	339,291	365,399	
3	乳幼児健全発達支援相談 [サービス提供事業] 健康課	事務事業の概要					事業の取組実績・成果				
		保護者の育児不安を解消し、将来の二次的な問題を予防するため、個別相談、経過観察、集団での課題（あそび）の場での行動特性に応じた対応方法の助言、小児神経科医師による診察、指導、臨床心理士、言語聴覚士、作業療法士、発達相談員等による療育及び相談の実施。					乳幼児健診などにおいて把握した729名の子どもと保護者に対し、乳幼児発達健診、相談、経過観察、療育等を実施した。				
		事業の分析結果					年度別事業費（千円） (H26は予算額)				
		達成(進捗)状況の評価	必要性	妥当性	有効性	効率性	今後の方針	H23	H24	H25	H26
	B	A	A	B	B	継続	60,287	60,151	59,162	61,081	
4	母子健康づくり [サービス提供事業] 健康課	事務事業の概要					事業の取組実績・成果				
		妊婦、生後3か月までの乳児がいる家庭を訪問し、保健指導を行い、心身の状態や生活環境の把握、不安や悩みの聴取、子育て支援の情報提供を行う。また、7～8か月児、2歳児健康教室を実施する。					新生児訪問は、里帰りや訪問を希望しない場合があり、苦慮しているが訪問率が年々向上している。2歳児健康教室の参加率が比較的low程度となっているが、離乳食講習会、乳幼児歯科相談、マタニティセミナー等の事業により幅広い母子保健知識の普及が実施できた。				
		事業の分析結果					年度別事業費（千円） (H26は予算額)				
		達成(進捗)状況の評価	必要性	妥当性	有効性	効率性	今後の方針	H23	H24	H25	H26
	B	A	A	B	B	継続	104,802	105,559	103,726	106,803	

